西鶴研究

全四巻

西鶴学会 編／竹野静雄 解説

昭和一七、一八年に四冊、戦後昭和二三年より年刊第一〇集まで刊行した『西鶴研究』を復刻。

西鶴文学を、文学は勿論、言語・文化・風俗・経済その他あらゆる部門より究明せんとする純学術研究機関雑誌。

クレス出版

『西鶴研究』刊行のことば

二松学舎大学文学部教授
竹野静雄

一、本誌は、西鶴文学を、文学は勿論、言語・文化・風俗・経済その他あらゆる部門より究明せんとする純学術研究機関雑誌である。

一、本誌は、努めて西鶴に関する新資料を掲載する。

一、西鶴に関する学会・文献・出版その他彙報的記事を網羅し、西鶴年鑑の役割をも果たさしめる。

一九四二（昭和一七）年六月五日、『西鶴研究』は右の「清規」を掲げて台湾三省堂から創刊された。折しもミッドウェー海戦勃発の日である。編者滝田貞治は時代の悪気流に向けて、「冷厳な学者の科学的再批判」を俟ってこそ西鶴は新しい世界に再び蘇り得るだろうと言い、「日本文化建設の揺ぎなき一礎石」の任を果たそうとしたのである。

限定三百部、会員頒布制。会員には、全ジャンルの国文研究者に立ちまじって、幸田露伴、斎藤茂吉、日夏耿之介、佐藤春夫、舟橋聖一、丹羽文雄ら。江口朴郎、鏑木清方までが名を列ねる。スタートはたしかに華々しかったが、忽ち戦局の悪化に祟られ、翌年一二月の第四冊をもって中絶の憂き目をみる。一九四八年、滝田の遺志を継いで復刊したのが西鶴学会代表吉田幸一で、同誌は年刊第一〇集（一九五七年）まで続いた。

題簽は幸田露伴筆、表紙・口絵には西鶴自筆・自画の版下を用い、カットも大部分西鶴本から採るなど、極めて斬新、ヴィジュアルな装幀で、芬々その興趣を盛り上げた。

足かけ一六年間の掲載論文・新資料・解説等は都合一六三点。作品論24、語彙・語法・構文21、受容史20、質疑本（作者）18、典拠・成立論17、考証14、新資料12、関連作家・作品10、以下諸本、時代文化、文学史、文献目録など実に多岐にわたる。パノラマはさらに講義題目や卒業論文、学会・研究会・講演会、ニュース、展覧会、古書目録、ときに芸能にも及ぶ。なかで例えば『好色一代男』の成立過程、助作・代作者、遺稿集の加筆・編集、『浮世栄華一代男』『凱陣八島』の作者等々、依然未解決な課題として今に残る。それだけでも『西鶴研究』の提起した問題は、もとより小さくなかったといえよう。

現在、本誌全一四冊を所蔵する図書館は極めて少なく、国立国会図書館ですら台湾版を欠く。この状態はまた、いたずらに古書価をつり上げてもいる。かれこれあえて復刻するゆえんである。

西鶴研究 第一冊 内容

西鶴の詩的精神　岡崎　義惠
西鶴のはなし序説　野間　光辰
西鶴用語の二三について　潁原　退藏
「天下の町人」考　中村　幸彦
貞享三年出版取締説について　渾峻　康隆
西鶴をめぐる諸問題　杉浦正一郎
西鶴の批判並に影響の今昔　瀧田　貞治
私と西鶴　宮崎　三昧
私の西鶴本複製及び複刻事業　石川　巌
西鶴本木版複製の顚末　神谷　鶴伴
稀書複製會の西鶴期　山田　清作
西鶴本一家言抄　水谷　不倒
「古今武士形氣」の全貌　瀧田　貞治

西鶴研究 第二冊 内容

黄昏の西鶴　頼　桃三郎
西鶴遺稿集をめぐる諸問題　瀧田　貞治
草の種　鈴本　敏也
「古今著聞集」と西鶴の説話　後藤　興善
明治文學に於ける西鶴の復活　新垣　宏一
西鶴と謠曲　石山　徹郎
「凱陣八島」寫眞集　寄木友雪撰　瀧田貞治校

西鶴研究 第三冊 内容

鍬西鶴語彙考證　眞山　青果
西鶴の描寫力　澁川　驍
「本朝列仙傳」と「西行撰集抄」の挿畫について　瀧田　貞治
一目玉鉾の外地　小野　晋
織留覺え書　田崎　治泰
西鶴文獻總年表　瀧田　貞治
淨玻璃　夏木　凉
難波風　片岡旨恕撰　瀧田貞治校

西鶴研究 第四冊 内容

西鶴文學と時代の教養　長谷川如是閑
西鶴論覺書　井本　農一
西鶴俳諧觀上の一問題　山本善太郎
國文學に表れたる日本精神 ——西鶴の説話から——　笠井　清
西鶴と瀬川菊之丞　新垣　宏一
西鶴辭世考　笠井　清
小説家の見た西鶴　岡田　稔
大坂みつかしら　兩吟　瀧田貞治校

第一集

西鶴と明治文學　久松潛一
紅葉筆寫の「色里三所世帶」とその原本 —「好色兵衛」の價値に觸れて—　滝田貞治
一葉への系譜 —「文學界」の人々と西鶴—　新垣宏一
「椀久二世の物語」について —西鶴考證—　渾峻康隆
西鶴改號の年代について　野間光辰
西鶴本題名考　井浦芳信
葉隱と西鶴の武家物　一色　豪
「西鶴諸國はなし」の外題と署名の問題　吉田幸一
西鶴の眼と手　綾田作之助
西鶴輪講の思出　三田村鳶魚

復刊第二集

役者評判記と西鶴の男色物 附、西鶴の影響をうけたる「古今四場居百人一首」に就て　木村捨三
西鶴の描いた遊女の諸相　小野　晋
色里三所世帶について　東　明雅
一葉への系譜(一)—「文學界」の人々と西鶴—　新垣宏一
西鶴說話の一考察—狂言「六人僧」から—　後藤興善
The Tragic Tale of "Onatsu and Seijuro" James Hoyt　三田村鳶魚
江戸文學と西鶴　前田金五郎
大矢數語彙考證(一)
西鶴本・改版改題本考　當世女容氣の三本(「好色五人女」改題本)
　　織留の四本(改版本のこと)
　　好色堪忍記(「浮世榮花一代男」の改題本)
俳諧「見花數寄」(「複製」)
見花數寄解說

復刊第三集

所謂西鶴作浮世草子の半數は他作なり　森　銑三
西鶴撰述和書八十餘部のことども —西鶴十三年忌追善「ところ葉」の一考察—　吉田幸一
矢數俳諧前後—雜筆井原西鶴の内—　村田　穆
「椀久一世の物語」論　笠井　清
中村西國と西鶴　市場直次郎
許六と西鶴　山崎喜好
大矢數語彙考證(二)　前田金五郎
西鶴語彙考證　笠井　清
西鶴項言　安藤菊二
西鶴五百韻　延宝七年板(複製)

復刊第四集

諸艶大鑑は西鶴の舊作なり　森　銑三
西鶴武家物攷—非西鶴說批判を中心として—　東　明雅
「好色一代男」成立攷　吉江久弥
眞實伊勢物語　岸　得蔵
犬著聞集管見　松田　修
西鶴と川柳　母袋未知庵
大矢數語彙考證(三)　前田金五郎
「椀久一世の物語」語彙考證—定本西鶴全集の新註について—　笠井　清
元祿十四年板但馬屋清十郎狂言 —蜀山人貼込帖に於ける芝居番附—　吉田幸一
お夏清十郎に關する歌謠

第五集

「評判記と西鶴」序說　小野　晋
西鶴の浮世草子に助筆者あり　森　銑三
嵯峨の隱家好色庵　吉江久弥
西鶴と京傳　水野　稔
西鶴の語法—浮世草子文末における時の助動詞—　塚田義房
西鶴大矢數と源氏物語 —併せて一代男執筆年時の推定—　吉田幸一
其磧・自笑確執前後
男色大鑑小論　長谷川　強
西鶴雜考(一)　福井貞助
西鶴研究斷片　木村捨三
西鶴年譜考證刪補　前田金五郎
再び「好色堪忍記」について　野間光辰
西鶴點「江戸點者寄合俳諧」解說　吉田幸一
「俳諧畫網」解說　東　明雅
西鶴點「江戸點者寄合俳諧」元祿五年　複製　朝倉治彦
俳諧畫網　延宝四年板　複製

第六集

「凱陣八島」は西鶴作なり　森　修
浮世榮花一代男　岸　得蔵
「一目玉鉾」私記　朝倉治彦
輕口の俳諧　尾形　仂
西鶴の構文—初期の作品の—　田崎治泰
西鶴の語法—係の助詞に對する結語について—　塚田義房
西鶴浮世草子に關する諸問題　森　銑三
西鶴模倣作品の二三に就いて —遊里樣太鼓・男色通鑑・傾城辻談義—　吉田幸一
英國に於ける元祿文學　リチャード・レイン
西鶴雜考(二)　木村捨三
西鶴語彙考證(四)　前田金五郎
「こころ葉」宝永三年板(複製)

第七集

西鶴浮世草子に對する斷案　森　銑三
西鶴の心中觀 —西鶴の語法—浮世草子文末諸語の用法について—　小野　晋
西鶴作品に於ける形容詞について —文學と言語との關係への一試論—　塚田義房
西鶴冥途物語の考察—北條團水の戲作か—　杉本つとむ
西鶴雜考(三)　吉田幸一
西鶴自畫讃雪中梅の横幅(遺稿)　木村捨三
好色一代男に於ける伊勢物語の影響 —特に安信の外記について—　瀧田貞治
「阿蘭陀丸二番船」解說　福井貞助
西鶴關係彙報(自昭和二十三年八月—二十八年十二月)　岡田利兵衛
「阿蘭陀丸二番船」延宝八年板(複製)

第八集

一代男に現れたる季節的描寫　森　銑三
色道大鑑と西鶴 —併せて「萬の文反古」の成立年代について—　吉田幸一
西鶴の國語學的考察(一)　杉本つとむ
西鶴本檢討の一試案　吉江久弥
好色盛衰記試論　西村義明
西鶴語彙考證(五)　前田金五郎
西鶴雜考(四)　木村捨三
細井貞雄の世之助の考　安藤菊二
「熊野からす」解說　前田金五郎
「熊野からす」元祿七年序(「複製」)
西鶴關係彙報(昭和二十九年一月—十二月)

第九集

「凱陣八島」西鶴作說の再檢討 —森修氏所論をめぐつて—　松田　修
諸艶大鑑の成立について —森銑三氏や堤氏の說をめぐつて—　吉江久弥
一目玉鉾の成立　河村賀裟夫
西鶴の剪燈新話系說話　笠井　清
西鶴文學の展開—其磧の描く人と遊里—　塚田義房
西鶴作品の國語學的考察(二)　杉本つとむ
好色一代男と浮土三部經　倉光德男
「江戸つゞきて」攷 —日本永代藏の本文誤讀について—　東　明雅
西鶴雜考(五)　木村捨三
西鶴語彙考證(六)　前田金五郎
伏見西岸寺任口年譜　岸　得蔵
「四國猿」について　吉田幸一
西鶴關係彙報(昭和三十年一月—十二月)
四國猿　元祿四年板(複製)

第十集〔終刊〕

一代男の文章の一檢討　中村　幸彦
江嶋其磧作好色物の構想　長谷川　強
西村本の浮世草子　野田　壽雄
西鶴と團水との描いた女性の比較　森　銑三
西鶴俳諧の推移　湯澤賢之助
西鶴作品の國語學的考察(三)　杉本つとむ
「凱陣八島」の作者推定の問題(特集)
再說『凱陣八島』は西鶴作なり —松田修氏の質疑に答えて—　森　修
「凱陣八島」は西鶴の作なりに關して　祐田善雄
「凱陣八島」の修辭と趣向　横山　正
「凱陣八島」に關する森修氏・松田修氏論考について　宗政五十緒
淨瑠璃史から見た「凱陣八島」作者の問題　信多　純一
凱陣八島の作者問題雜感　角田　一郎
「凱陣八島」作者批判の歸着點 —諸氏の論考を通讀して—　吉田　幸一
「見聞談叢」と「織留」の一章　吉江　久彌
尊子八千代傳　小野　晋
西鶴雜考(六)　木村　捨三
西鶴と堺　井口　和子
西鶴の墓その他　(遺稿)石川　巌
西鶴語彙考證(七)　前田金五郎
「大坂獨吟集」解題　尾形　仂
大坂獨吟集(複製)延寶三年板

私の西鶴本複製及び複刻事業

石川巖

本誌主幹氏から私に課せられた論題は特に「西鶴に關する動機顚末に就て」何か書けとのことであるが、今更ながら何となく舊惡露見の感がないでもないが、最早老さきの知れた敗殘の老骨、この際冥途の置土産に駄文を草し置くも强ち惡事ばかりとも限るまいかと敢て禿筆を呵した所以である。

今より約四十年前卽ち日露戰役直前學窓を出た私は國漢の先生にでも成る積りで、當時圖書館(上野公園)通ひをしてゐた際中、江戸文學などの參考書を漁る頃、例の博文館發行の帝國文庫(西鶴全集)が目につき、貧囊を傾け、當時旣に發禁物として市價四五圓は下らなかつたものを手に入れ、わからぬながらも掌中の寶玉として愛藏したのが抑の始まりで、若氣の至りから、例の○○箇所が氣になり、未だ學窓を出たばかりで、西鶴の文章などわからう筈はないのであるが、たゞ○○箇所の前後だけがわかるので、見せられぬとなると見たいのが人情で、當時上野には西鶴の好色本(其他の好色本も)全部揃つてゐて、(無論今日でもあることはあるが絶對閲覽禁止)特別料金さへ拂へば何人にでも閲覽自由であつたのを幸ひ、○○箇所の缺文を

▶第一冊　見本

私の西鶴本複製及び複刻事業　(石　川)

◀第一集　見本

西鶴の眼と手

織田作之助

西鶴については、一昨年夏若氣の至りの愚著「西鶴新論」を上梓して以來、さしたる新しい發見も私にはない。强いて言へば、愚著の中の考證的事實の誤謬を多く發見して、恥しい想ひをしてゐるくらゐなものである。

この稿を草するに當つて參考のために贈つていただいた「西鶴研究」の第二冊の彙報に愚著の紹介的短評が載つてゐるが、それにも「諸所に事實の誤りがある。」とさすがに、ちやんと指摘してある。

けれど、もとより私は淺學の、一介の小說家に過ぎない。西鶴の、たださへその經歷の曖昧模糊としてゐる西鶴の、考證的方面の詮索など私の出る幕ではない。よしんば思ひ切つて出てみたところで、新派の役者が床芝居(チョボ)の舞臺へ間違つて出たやうなもので、見苦しいばかりである。ありていに言へば、私が考證に觸れてゐると見せかけたのは、實はさう見せかけて、べつのことを語りたかつたのにほかならない。

では、その、語りたかつたべつのこととは、何か。彙報の短評にはかうある「西鶴の大阪的性格を甚だ强調。なほ著者は、西鶴の無思想といふ世の批難に對して、中世的なすべての思想を輕蔑し、儒教的佛教的世界觀を信じなかつ

2002年4月刊

西鶴研究 全四巻 竹野　静雄 解説

B5判、上製函入、クロス装、本文クリーム中性紙使用

揃定価95,000円（税別）　ISBN4-87733-131-X（セット）

❶第一冊（昭和17年6月）～第四冊（昭和18年12月）
定価25,000円（税別）　ISBN4-87733-132-8

❷第一集（昭和23年10月）～第五集（昭和27年10月）
定価25,000円（税別）　ISBN4-87733-133-6

❸第六集（昭和28年10月）～第八集（昭和30年10月）
定価25,000円（税別）　ISBN4-87733-134-4

❹第九集（昭和31年11月）～第十集（昭和32年12月）
定価20,000円（税別）　ISBN4-87733-135-2

●クレス出版　好評既刊書

西鶴研究資料集成

全8巻　竹野静雄監修・解題

江戸時代の浮世草子作者・俳諧師井原西鶴の没後三百年を記念して、明治大正、昭和初期に発表された資料約四七〇点を纏めて刊行。

揃定価一二六、〇〇〇円

芭蕉研究資料集成

昭和前期篇全19巻　久富哲雄監修・解題

俳諧の世界のみならず、日本文学全体に多大な影響をおよぼした芭蕉の没後三百年を記念して、人物・作品の価値ある研究書を集成。

揃定価二七五、〇〇〇円

蕪村研究資料集成

全17巻　久富哲雄・谷地快一監修・解題

日本・中国を問わず、古典に親しみ、俳諧に絵画に、自在なる境地を志向した蕪村の明治・大正期に刊行された基礎的研究資料を集成。

揃定価一八六、〇〇〇円

芭蕉研究論稿集成

全5巻　久富哲雄監修

明治大正、昭和前期に雑誌に発表された芭蕉研究に関する論稿を、特集号はそのままに、その他を主題別に分類して収録。　揃定価八〇、〇〇〇円

若月保治浄瑠璃著作集

全7巻　秋本鈴史・和田修・林久美子・坂口弘之解説

浄瑠璃研究の第一人者若月保治の代表作を復刻。

❶近松人形浄瑠璃の研究　定価二二、〇〇〇円
❷人形浄瑠璃史研究　定価二五、〇〇〇円
❸近世初期国劇の研究　定価一三、〇〇〇円
❹古浄瑠璃の研究　全四巻揃定価九五、〇〇〇円

俚言集覧　自筆稿本版

全11巻　太田全斎編　ことわざ研究会監修・解題

江戸時代の代表的な三大国語辞書の一つ『俚言集覧』の唯一の稿本を『移山伊呂波集』とともに復刻。活字本にはない図像や剰記、書き込み等も多い。

揃定価一五〇、〇〇〇円

近世文芸研究叢書

全63巻　近世文芸研究叢書刊行会編・解説

近世文学・芸能に関する明治大正に刊行された名著稀書を復刊。

第一期文学篇全23巻　揃定価二九一、〇〇〇円
1、通史　全7巻　揃定価八〇、〇〇〇円
2、一般　全7巻　揃定価九六、〇〇〇円
3、作家　全9巻　揃定価一一五、〇〇〇円
第二期芸能篇全40巻　揃定価五五八、〇〇〇円
1、歌舞伎Ⅰ　全10巻　揃定価一三五、〇〇〇円
2、歌舞伎Ⅱ　全10巻　揃定価一三八、〇〇〇円
3、浄瑠璃　全10巻　揃定価一四五、〇〇〇円
4、舞踊・邦楽・諸芸・雑纂　全10巻　揃定価一四〇、〇〇〇円

徳川三百年人物大鑑

全5巻　長田偶得編

徳川三百年間に於ける思想界に勢力のあった碩学鴻儒、文学者美術工芸家名僧、義人烈士等七二名の伝記集。年譜・肖像画付。揃定価七六、〇〇〇円

日本鹿子

磯貝舟也著　久富哲雄解題

元禄四年三月刊行の、全国的な道・国別の地誌十五巻を復刻。城・陣屋・神社・仏閣・名所・名物等を詳細に記述する、江戸文化研究者必携の書。

定価一八、〇〇〇円

影印仮名つき錦繡段・三體詩・古文真寶

久富哲雄編・解題

江戸期に刊行された貴重な振仮名つき漢詩文集を復刻。『錦繡段』『三體詩』は、天和版と元禄版の二種類を収録。近世の文学作品読解の参考となる文献集。

定価一〇、〇〇〇円

源氏物語研究叢書

全17巻　日向一雅監修・解題

明治から昭和二十年代までを中心として、源氏物語の主要な研究書を網羅。近代における研究史を顧みることで、細分化し多様化した研究を統合。

揃定価一七五、〇〇〇円

株式会社クレス出版
〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町14－5　メローナ日本橋
☎03(3808)1821　FAX03(3808)1822　http://www.kress-jp.com/